

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

鷹取中学校区	校番 4	福山市立霞小学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月17日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域を大切に思う児童生徒を育成してほしい。 CSを導入して、地域と学校が交流することができるようになってきた。さらによりよいことの発信を積極的にしてほしい。 児童・生徒と共に会議をし、地域課題を考えていくことを継続する。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力はおおむねついているが、思考力に課題がある。 人間関係づくりが苦手な子どもが増えてきている。 長欠・不登校の子どもが一定数いて取組をしているが改善が難しい。 CSでの活動を通して、あいさつができる児童・生徒が増えてきた。 	育成する 資質・能力	知識・技能 課題発見・解決力 主体性
		めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	気づき 考え 行動する 子ども
		中学校区として 統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが「わかる・できる」と思える教育活動の推進 地域活動に自ら参加し、地域と共に課題解決できる児童・生徒の育成 教職員の笑顔・元気・やる気

III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>自他を尊重し、主体的に学び続ける児童の育成</p>
<p>現状</p> <p><児童></p> <ul style="list-style-type: none"> 見つけた課題を試行錯誤しながら学ぶことができる。(94.4%) 自分の考えを工夫して表現することができる。(90.5%) 基礎的な知識や技能がおおむね定着している。(単元末テスト通過率 国語(知識)85% 算数(知識)83%) 生活・総合で地域の一員であることを意識して学び、学んだことを発信することができる。 05年生の新体カテットの記録が、全国の同学年の全国かつ県の平均値を超えた種目は8種目中6種目、目標を達成している。 特に算数科の思考力が低く、学力が二極化している。(単元末テスト通過率 算数(思考)72.9%) 児童同士の学び合いが十分にできていない。 自分で目標を設定し意識して行動できる児童が増えたが、達成に向けて粘り強く努力を続けられる児童は多くない。 5年生で、普段運動していない児童が20%みられ、運動意欲が停滞している現状がある。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> つきたい力を意識した授業づくりを行い、その力がつくまでやり切らせることができた。 試行錯誤して学ぶ児童主体の学習活動を行って、児童が粘り強く課題を解決する力や表現力をつける必要がある。

育成する 資質・能力	知識・技能 課題発見・解決力 主体性
めざす 子ども像	<p>(知識・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けている。 <p>(課題発見・解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な問題における課題を発見し、よりよい解決方法を考え実行し、次の学習につなげることができる。 相手の気持ちを理解しながら意見を伝え合うことを通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。 <p>(主体性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の個性や興味・関心等に基づいて、自分の意思をしっかりともち、よりよい生活になるよう行動することができる。 自分のよさや個性を知り、自分の言動が相手や他者へ影響を及ぼすことを理解し、行動することができる。
	<p>研究</p> <p>テーマ 互いを尊重しながら主体的な学びを生み出す授業の創造 ～自ら問い、考え、表現できることも～</p> <p>内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら問いをもつことができる授業づくり 学びがつながる振り返り
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが見つけた課題を試行錯誤しながら学ぶ授業 子ども考えを表現することができる授業

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立霞小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	加 入 評 価	達 成 評 価	改 善 方 策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	加 入 評 価	達 成 評 価	総 合 評 価
3	子どもたちが「わかる・できる」と思える教育活動の推進	★	継 続	・自分の分かったことやできたことを表現することができる児童を育てる。	①学習のふり返りを書く機会を設定する。 ②定着状況をつかみ、それをもとに、授業を組み立てる。 ③運動意欲が高まるような授業作りや体育レクを行う。 ④学期始めに決めた目標を達成するために、キャリアログを用いて月1回ふり返る機会を設定する。	①児童アンケート 「自分の考えたことやできたことをふり返ることができる。」85% 「根拠をもって自分のできるようになったことを実感している。」85% ②単元末テスト (国語、算数)通過率70%未満の児童を前年度以下にする。 【前年度】 国語(知識:15% 思考:8%) 算数(知識:17% 思考:22%) ③5年生の新体力テストの記録が前年度の5学年の全国かつ県平均値以上。 8種目中4種目 ④児童アンケート 「自分で決めた目標を達成するために意識して行動している。」児童の割合95%								

2	地域活動に自ら参加し、地域と共に課題解決できる児童・生徒の育成	継続	・地域の一員としての意識をもち、自分から地域と相互に関わり合いながら、成長できる児童を育成する。	①地域を知ったり調べたりする場を設定し(社会科や生活・総合)、学校生活を通して、様々な場面で地域と関わる機会を設ける。 ②あいさつ週間や毎月1・17日などに児童会執行部の児童を中心に、児童・教職員であいさつ運動に取り組む。	①児童アンケート 「学校生活や学習の中で、地域と関わっていると感じる。」児童の割合90%以上 ②児童アンケート 「進んであいさつをすることができる。」児童の割合90%以上													
2	教職員の笑顔・元気・やる気	継続	・個性を大切に、やりがいを感じながら、個々の能力を十分に発揮できる学校風土をつくる。	①日々の授業実践や3部会での分掌の分担・協働に取り組むことを通して、自分の強みを生かした取組を実践する。	①教職員アンケート 「自分の個性が認められているという実感がある。」教職員の割合88%以上													

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。